

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 98

千葉県立大網高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

学校生活の中で多くのことに興味・関心をもち、自ら学び、考え、活動することのできる主体的で社会生活における基本的なマナーを身に付けている生徒で、特に下記の具体的項目に該当する生徒。

ア 学習活動に意欲的に取り組む姿勢を、強くもっている生徒

イ 大学進学など、将来への確かな目的意識を持ち、その実現に向かって努力を継続することのできる生徒

ウ 部活動、生徒会活動、委員会活動等に熱心に参加し、中学校での活動を入学後も継続して行う意欲のある生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：1人約6分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ、ウ及びエについて加点（上限90点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 出欠の記録	皆勤である場合は、30点満点で加点する。
ウ 行動の記録	〇の数により30点満点で加点する。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	記載内容により学級活動、生徒会活動は20点満点で、部活動等は10点満点で加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [120点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aは15点、bは10点、cは1点とし、2名の評価者の評価（各60点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	面接	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	90点	120点	$(845 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあたっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜の資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 98

千葉県立大網高等学校 全日制の課程 農業科・生物工学科

1 期待する生徒像

学校生活の中で多くのことに興味・関心をもち、自ら学び、考え、活動することのできる主体的で社会生活における基本的なマナーを身に付けている生徒で、特に下記の具体的項目に該当する生徒。

- ア 学習活動に意欲的に取り組む姿勢を、強くもっている生徒
- イ 農業に関する各分野に興味・関心が高く、将来の進路に生かそうとする意欲のある生徒及び将来農業経営を目指す生徒
- ウ 部活動、生徒会活動、委員会活動等に熱心に参加し、中学校での活動を入学後も継続して行う意欲のある生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：1人約6分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ、ウ及びエについて加点（上限90点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 出欠の記録	皆勤である場合は、30点満点で加点する。
ウ 行動の記録	〇の数により30点満点で加点する。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	記載内容により学級活動、生徒会活動は20点満点で、部活動等は10点満点で加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [120点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aは15点、bは10点、cは1点とし、2名の評価者の評価（各60点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	面接	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	90点	120点	$(845 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあたっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜の資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 98

千葉県立大網高等学校 全日制の課程 食品科学科

1 期待する生徒像

学校生活の中で多くのことに興味・関心をもち、自ら学び、考え、活動することのできる主体的で社会生活における基本的なマナーを身に付けている生徒で、特に下記の具体的項目に該当する生徒。

- ア 学習活動に意欲的に取り組む姿勢を、強くもっている生徒
- イ 農業及び食品に関する各分野に興味・関心が高く、将来の進路に生かそうとする意欲のある生徒
- ウ 部活動、生徒会活動、委員会活動等に熱心に参加し、中学校での活動を入学後も継続して行う意欲のある生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：1人約6分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ、ウ及びエについて加点（上限90点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 出欠の記録	皆勤である場合は、30点満点で加点する。
ウ 行動の記録	〇の数により30点満点で加点する。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	記載内容により学級活動、生徒会活動は20点満点で、部活動等は10点満点で加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [120点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。aは15点、bは10点、cは1点とし、2名の評価者の評価（各60点満点）を合計し、得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	面接	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	90点	120点	$(845 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあたっては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜の資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 98

千葉県立大網高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ約20分

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 第3学年において評定1の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	欠席日数の数により評価する。 各学年において欠席が20日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	行動の記録の○の数により評価する。 ○の数が3個以下の場合、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動等で顕著な功績のあった者、同一の部活動を3年間継続した者を評価する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

4 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面談を行う。

*前期選抜等で入学許可候補者に内定した者のうち入学確約書を提出した者の数が、募集定員を満たした学科については、後期選抜を実施しません。

平成30年度 後期選抜の選抜・評価方法

学校番号 98

千葉県立大網高等学校 全日制の課程 農業科・食品科学科・生物工学科

1 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ約20分

2 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 第3学年において評定1の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	欠席日数の数により評価する。 各学年において欠席が20日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	行動の記録の○の数により評価する。 ○の数が3個以下の場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動等で顕著な功績のあった者、同一の部活動を3年間継続した者を評価する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活への意欲	高校生活に対する目標・意識が明確である。 高校生活（学習・部活動等）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に回答することができる。 中学校時代に頑張ったこと等について、明確に回答することができる。
エ 身だしなみ・態度	服装・頭髪等身だしなみが整えられている。 基本的な面接作法が身に付いている。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜実施要項に従い判定する。

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

4 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途個人面談を行う。